

第490号 8月号 2025.8.20

岐阜県

商店街だより



発行元：岐阜県商店街振興組合連合会 岐阜市藪田南 5-14-53 TEL：058-277-1107

ふるさとを遊び尽くす！親子でめぐる夏の商店街 高山市 まちなか歩いてクイズラリー

◆主催：飛騨高山サマーフェスティバル推進協議会

7月12日（土）に高山市で開催された「まちなか歩いてクイズラリー」に参加し、現地では長尾実行委員長をはじめ、商店街の有志の皆さまや地域の実行委員会の関係者の方々からお話を伺うことができました。



▲受付はQRコードもしくはハガキ確認で対応

■ 市民限定の地元密着型イベント

高山市の商店街で開催される「まちなか歩いてクイズラリー」は、4つのイベントからなるサマーフェスティバルの1つで、毎年1,000人規模の応募がある季節の風物詩となっています。

このイベントは、「商店街にもっと人を呼び込みたい」という地域活性化の想いから始まりました。普段は静かな商店街に、子どもたちや親子連れが訪れる仕組みづくりです。「子どもたちが楽しめて、ふるさとを感じられるイベントにしたい」という声をもとに、クイズとスタンプラ

リーを掛け合わせた、参加型の企画が導入されました。自然と店舗を巡る流れができることで、地域の店との接点も生まれ、地元ならではの温かみある交流が広がっています。こうして今では、夏の恒例行事として親しまれています。

大きな特徴は、「地元のために」「家族で楽しめる」という点です。春・秋の観光祭りとは異なり、まちなか歩いてクイズラリーは、観光色をあえて控えめにし、地域の子もたちや保護者が安心して楽しめる内容で構成されています。

■ 賞品で広がる店舗との接点づくり

このイベントの目玉のひとつが、「クイズラリー&ガラガラくじ」です。参加者は指定されたクイズスポットを巡り、正解を集めてから商店街でくじを引きます。特等が当たれば、なんと商店街ごとに用意された3,000円相当の賞品がもらえます。



▲ゴールしたらお楽しみのガラガラポンっ！

この賞品制度には、もう一つの大きな目的があります。それは「商店街に足を運んでもらうこと」。賞品は当日の会場ではなく、実際のお店で受け取る仕組みになっており、子どもたちと保護者は商品を受け取るために、店舗に立ち寄ることになります。そこで初めて出会うお店や商品との接点生まれ、次の来店にもつながっていきます。

また、外れてもお菓子がもらえるなど、誰もが「何かを得られる」安心感があり、子どもたちの満足度も高いです。「あんなに頑張ったのに何ももらえなかった…」という悲しい気持ちを残さない、細やかな配慮が感じられます。

■ 主催者の熱意と試行錯誤の継続

このイベントの運営には、高山市の商工会議所や市役所、地元企業、そして商店街の有志たちが参加しています。小規模な組織ではなく、まさに“地域総出”の協力体制です。

運営チームは、毎年を経験をもとに少しずつ改善を重ねてきました。例えば、かつては先着順で混雑が発生していた受付も、現在は事前応募制と二部制にすることで混乱を回避しています。また、QRコードを活用したハイブリッドな受付方法も導入され、郵送によるコストや手間の軽減にもつながりました。

こうした工夫の背景には、「できるだけ人手をかけず、安全に運営したい」という想いと、「参加者にとって快適な体験を届けたい」という熱意があります。天候による影響や、年ごとの調整も欠かせませんが、それでも毎年開催される理由

は、主催者たちの“続ける意志”に他なりません。

■ 祭りを通じた地域との関係づくり

まちなか歩いてクイズラリーは、単なる夏の娯楽ではありません。むしろ「地域をつなぐきっかけ」や「ふるさとを思い出す場所」としての役割を果たしています。

例えば、高校生による「おしごとたいけんかい」や親子参加型の企画など、次世代と地域をつなぐ取り組みも継続して実施されています。進学などで高山を離れる若者が多い中、「いつかまた戻ってきたい」と思えるような思い出づくりにもなっているのです。

商店街の方々は、「お祭りは、見る側よりも“やる側”が楽しむことが大切」と語ります。地元の人が主役となり、地域の未来につながる時間を共有する——そんな祭りの原点を思い出させてくれるのが、このイベントの本質かもしれません。

■ イベント継続の鍵は“段取り力”

現在、まちなか歩いてクイズラリーは14回目を迎え、地域にしっかりと根付いた恒例行事となりました。「7月の第2土曜はクイズラリーの日」と自然に認識されているのも、積み重ねてきた“段取り”の賜物です。

イベントの企画、運営、告知、当日の流れ、後片付けまで、すべてが役割分担によって成り立っています。長年関わる運営担当者の中には、「段取りがわかっているからこそ続けられる」と語る方もいます。



▲商店街をクイズしながらまわります



▲ゴール！！たくさんの賞品が当たりました！

「やって終わり」ではなく、「次につなげる」ための運営力が、このイベントの持続を支えているのです。コロナ禍を経ても開催が継続できた背景にも、柔軟な工夫と地域全体での共有された経験値がありました。

■ 編集後記～取材を終えて～

このイベントは、商店街を舞台にしたスタン

プラリーや抽選会を通じて、普段訪れない層に商店街の魅力を届ける仕組みが整えられています。地元小学校との連携や市民向けの告知により、参加率が高く、地域内消費を喚起しています。また、複数団体の協力体制と公的支援により、安定した運営が可能となっており、継続的な開催が地域のにぎわい創出と地元定着促進につながっています。

ほんのひととき、口福(幸福)に浸る月あかり。 御菓子処「黄金月(おうごんつき)」 (高山下一之町商店街振興組合)

7月12日(土)に、高山市のどら焼き専門店「黄金月(おうごんつき)」を訪問して、店主の洞口さんにお話を伺ってきました。



▲黄金月(おうごんつき)の店舗

■ 商店街の温かい支援と地域とのつながり

高山市の一角にあるどら焼き専門店「黄金月(おうごんつき)」は、オープンからわずか数ヶ月で地域に根差した存在となっています。もともと夫婦で営まれていた伝統ある和菓子屋の空き店舗を活用し、新たにお店を構えました。開業当初から商店街の皆さんに温かく迎えられ、地域とのつながりを感じながらスタートを切ることができたそうです。

スタンプラリーのクイズに「黄金月」を取り上げてもらったり、近隣の薬局の方が「せっかくならどら焼き買って行って」とお客様に勧めてくださったりと、地域全体が応援団のように支え

てくれているのです。

■ “黄金月”という店名に込められた想い

店名の「黄金月」は、どら焼きを焼くときに使う道具「どらさじ」が由来です。この「さじ」が、まるで金色の満月のように美しく、そこからインスピレーションを受けて名付けられました。

洞口さんは「練習中、小さなどらさじで何度も試していた時、ふと“黄金の月みたい”と感じたんです」と振り返ります。その象徴的な風景と、どこか懐かしい響きのある「黄金月(おうごんつき)」という名前には、丁寧な手仕事と美しさへのこだわりが込められています。



▲黄金月の名前の由来となった「どらさじ」

■ どら焼きに広がる新しい「月」のカタチ

「黄金月」では、他では味わえないオリジナルどら焼きを展開しています。看板商品の「チーズナッツ」は、ローストしたナッツをクリームチーズとバターで和えた独自の味わいが人気です。

その他にも、梅酒に漬けた梅を使った「梅酒の梅」や、生姜とはちみつを組み合わせた「しょうが」など、季節ごとの味も楽しめます。

専用駐車場がないため、車で立ち寄るお客様はゆっくり商品を選べないことも。そこで洞口さんは「選べば間違いない」セット商品を開発しました。全種類を楽しめる「大黄金月セット」と、アルコールを含まない「三日月セット」の2種があり、後者は妊婦さんや学生さんにも配慮された内容です。

「三日月セット」という名前には、満月（全種類）ではないけれども魅力をたっぷり詰め込んだという想いが込められています。今後は「パイナップルどら焼き」の登場も予定されており、さらなる進化が期待されます。



▲黄金月(おうごんつき)の店主の洞口さん

■ 素材とレシピへの徹底したこだわり

洞口さんは和菓子職人でありながら、もともと調理師の資格を持ち、洋の要素も積極的に取り入れています。生地や餡の配合、日持ち、食感まで細部にわたり試作を重ね、オープンの前までレシピ調整が続けられたといいます。

また、冷蔵保存を必要としない設計にこだわったのも、日持ちするお土産としての汎用性を高めるためでした。焼き台には、静岡の師匠から譲り受けた銅板を使用しており、「この道具とともに店を始めよう」と決意されたそうです。

商品開発では、「手間はかけるけど、効率は求め過ぎない」という姿勢で、妥協のない味づくりが続けられています。

■ 高山における“お土産文化”と市場への挑戦

観光地として名高い高山には、飛騨牛やラーメンといった“食の名物”はあるものの、「持ち帰りやすいお土産」として定着している商品は意外と少ないのが現状です。店主の洞口さんは、その隙間に注目しました。「高山には“これを買えば間違いない」という定番土産がない。ならば、自分がその一つになりたい」と考え、万人に親しまれる“どら焼き”を選んだのです。黄金月のどら焼きは、味はもちろん見た目にもこだわり、お土産として手に取りたくなる工夫が詰まっています。高山発の“新たなお土産文化”を築く挑戦が、今まさに始まっています。



▲お土産でいただいた「大黄金月セット」

御菓子処『黄金月』

住所：高山市下一之町65-1

営業時間：平日9:30～17:30頃

土日9:30～17:00頃

売り切れ次第閉店

■ 編集後記～取材を終えて～

どら焼き専門店「黄金月」は、その名のとおり、どら焼き一本にしばっているお店です。種類を限定することで、材料や道具のムダを減らし、安定した美味しさを提供できるのが特徴です。また、店主の洞口さんは和菓子職人としての経験に加え、イタリアンレストランでの修行も積んでおり、和と洋を組み合わせたユニークなどら

焼きを生み出しています。これは他の職人では容易にマネできない洞口さんならではの強みであり、他のどら焼き専門店との差別化要素となっています。

今後さらに発展していくためには、「高山といえば黄金月のどら焼き」と思っただけのようなブランドづくりが大切です。駅や旅館などと連携して、観光客の方に知ってもらう工夫も有効でしょう。

また、ワークショップを開催してどら焼きづくりを体験できるイベントを開くことで、手づくりの温かみや、洞口さんの想いをお客さまに直接届けることができます。こうした取り組みは、思い出に残る体験となり、SNS発信との相乗効果でお店のファンづくりにもつながります。

【取材・記事 中小企業診断士 都築宏一】

◆ よろず支援拠点全国本部(独立行政法人中小企業基盤整備機構)

中小機構は、「よろず支援拠点全国本部」として、47都道府県に設置されている中小企業・小規模事業者の方々のさまざまな課題にお応えする「よろず支援拠点」をサポートしています。

※「よろず支援拠点」とは、国が全国に設置している無料の経営相談所です。

【対象者】

中小企業・小規模事業者（創業予定者含む）、またはそれに類するNPO法人・一般社団法人・社会福祉法人など

【事業のポイント】

1 よろず支援拠点のミッション

専門性の高い経営アドバイス

売上拡大や経営改善等の経営課題解決に向け、専門的で高度な提案を行います。

課題解決のための総合調整

他の中小企業支援機関と連携し、相談に応じた適切な機関の紹介、複数の機関による相互連携のコーディネート、それらによる地域全体として最高水準の支援を実現します。

中小企業支援機関に対する支援ノウハウの共有
経営課題の解決に必要な提案方法や支援事例等、よろず支援拠点に蓄積されたノウハウを他の機関に共有します。

【支援内容】

「よろず支援拠点」では、中小企業・小規模事業

者のあらゆる（よろず）経営相談に無料に対応しており、経営改革支援や経営改善支援のワンストップの窓口になっています。中小機構はその全国本部として、全国47拠点の支援能力向上に取り組んでいます。

1 経営革新支援

「売り上げを伸ばしたい」「販路を拡大したい」
相談事業者の強みを発見、新商品のアイデアやパッケージの新デザインの提案など、新たな顧客獲得・売上拡大に向けた先進的な支援を行います。

2 経営改善支援

「毎月の資金繰りが厳しい」「採算の悪い事業をやめたい」
経営改善計画策定へのアドバイス、資金繰り改善や事業再生などに関する経営改善に向けて支援を行います。

3 ワンストップサービス

「経営上の悩みについて、どこに相談したら良いかわからない」
相談先に悩む中小企業・小規模事業者の窓口として、広く相談を受け付けています。相談内容に応じて、地域の支援機関・専門家と連携を取りながら支援を行います。

4 よろず支援拠点全国本部の役割

専門家と中小機構職員が「よろず支援拠点」を巡回し、地域の状況や課題を把握した上で、地

域支援機関と連携した支援体制を構築するとともに、先駆的な支援モデルやノウハウを共有することにより、全国47拠点の支援能力向上に取り組んでいます。

詳しくは「よろず支援拠点全国本部ポータルサイト」をご覧ください。

よろず支援拠点全国本部は、中小企業・小規模事業者の相談に乗るよろず支援拠点を直接支援すると同時に、フィードバック委員会を開催・運営しています。フィードバック委員会はよろず支援拠点に事業計画や活動への助言、コメントを行い、次年度以降のより良い支援につなげます。

【ご利用の流れ】

- 1 まずは事業所が所在する都道府県のよろず支援拠点に連絡し、相談予約を行ってください。相談は何度でも無料です。

2 相談時間は1回1時間程度です。経営に関する課題、悩みについて、どんな小さなことでもご相談ください。窓口に来訪いただく対面形式のほか、電話、メール、テレビ会議システム等での相談にも対応しています。

3 経営課題に対応する専門人材（コーディネーター）が、対話を通じて課題分析を行い、解決策を提案します。

4 提案の実行に際しては、進捗と成果を継続的に確認しながら、フォローアップを行います。

5 実行の過程で新たな経営課題が見つかった場合にも、引き続き解決に向けて支援します。

【お問い合わせ・お申し込み】

本部 経営支援部 連携支援課（よろず支援拠点全国本部）

TEL：03-5470-1581

■勉強会・セミナー開催のお知らせ

商店街活性化支援事業 セミナー

日時：令和7年8月26日(火) 13:30～15:50

場所：OKBふれあい会館 14階 展望レセプションルーム(岐阜市藪田南5-14-53)

テーマ：「可視化データを身近に感じるRESAS活用研修」

講師：中部経済産業局 RESAS調査員 種田英司氏
滝沢 充氏

人材育成事業 第2回勉強会

日時：令和7年9月24日(水) 13:30～15:30

場所：OKBふれあい会館 4階 405会議室(岐阜市藪田南5-14-53)

テーマ：「SNS活用、動画制作の基本を学ぶ」

講師：有限会社エアーズプラン ITデザイナー 石井克成氏

■事務局(ゆ)のヒトリゴト

毎日とても暑い日が続いていますが、いかがお過ごしでしょうか？40度にも迫る気温は、体力・気力共に奪っていきますね。

この暑さの中ですが、商店街は夏祭りがたくさん開催されています！きっとたくさんの子供たちが

夏祭りを楽しみに待っていると思います。

夜のお祭りも、まだまだ暑いですので、熱中症対策をしっかりと、参加していただきたいですね。

運営される皆様も、十分にお気を付けください！

岐阜県商店街だよりは、岐阜県からの補助金を受けています。